学連資料：「インカレスプリント」について

（参考流用：11 月 30 日開催：スプリントフォーラム）

文責：山川克則（日本学連副会長・YMOE 社代表）

10 月 12 日（インカレロング前日）開催の日本学連総会で、インカレスプリントの実験大会開催の決議をいただきましたが、その際に幹事長に説明していただきましたが、一般加盟員向けにもう少し判りやすく解説したと思います。こういう文書を広報するのも、今まで意義の部分で、いかに浸透が図られていなかったかという反省もあり、広報に載せるものです。また、11 月 30 日に開催される全日本スプリント後のスプリントフォーラムでの参考資料としても提示します。

話を判りやすくするために、Q＆A方式で語り口調で説明したいと思います。

Q：そもそもなぜインカレスプリントなんですか？　JOA の web にも、世界で種目ごとのフォーマットが変わったから、という説明がされていますが、それとは具体的にどういう関係があるのですか？
A（山川）：簡単に言えば、世界のフォーマットの変更というのは、日本のような中の下クラスの国では、世界の舞台に複数の代表選手を複数送り込めるのは、事実上今後スプリントとリレーだけになるということです。ミドルとロングは中の下以下の国では 1 国 1 人しか代表を出せない（世界的には、ランキングとか他の指標で選出、強い国の代表選手が大きく制限されることが改善？）ということになります。詳しくは JOA の web をみていただくとして、今後有望な選手が出てきても、世界の壁の感じ方、対策の仕方が変わるということです。
ミドルはオリエンテーリングの内容的にはリレーに通じる部分がありますが、個人種目で世界の舞台に複数の選手が挑戦できるのは今後スプリントのみ、では国の組織として、今後どういう対策をとるのか、ということが問われているということです。（なので、このようなスプリントフォーラムという集まりも開催されているわけです）

Q：学連は 4 年前にインカレスプリントの開催を否決していますよね？
A（山川）：そうです。今年で全日本スプリントは 6 回目、第 1 回の時（千葉県開催）に試行大会として併催して頂きました。その後規則も個人 3 種目全部を規則整備して、会議にかけましたが、スプリントをインカレとして開催するには値しないと当時の会議で組織決定をしているのです。第 2 回の新潟での全日本スプリントでは、「学生の部」として、将来機が熟した時に移行できるようにと灯だけは残した形式で開催は維持し、その後も主管県に併催をお願いしていくという立場をとりました。で、結局学連としては、スプリントに関しては正当な（正統な）キャリアアップのシステム作りしなかったということになりますね。それが今度の世界のフォーマット改正で、問題になっている。つまりスプリントしか世界に複数選手を送り出せる種目が実質上なくなってしまったのに、（若い選手の大きな供給元である）学連は正当なキャリアアップの回路をもっていない。そして 4 年前に一旦放棄してしまった。これについて、この機会にもう一度考え直そうよ、ということなのです。事態は不作為（問題がわかっていても、知らんぷりして見過ごすこと）にも組織には責任が問われる事態なのではないか、こういう考えがあって、そもそも他のことでも忙しいのに、あえてスプリントについて口に出し、まずは実験大会でやってみようということなのです。

Q：否決したことを非難して、反動的な動きをとるということではなくて、なぜスプリントのインカレ開催が否決されたのかを、もう一度しっかりと考える必要がありそうですね？
A（山川）：その通りです。世界の発表からすぐに今年度の幹事会で議題として扱ってきましたが、まさにこの点から議論をし直しています。

- スプリントだけで遠征はできない
- そもそも大会多すぎ
- 手軽に行える種目ではあるが、これを真剣に一正式種目として真剣に取り組むどうかはまだ怪しい
- なので、インカレ設計の基本としてある参加費収入で大会の経営が成り立つかどうかも怪しい

議論のポイントは“強いモチベーション”を持てるかどうかに集約されました。そして、今の全日本乗っかってお願いする形式も、実質が（特に女性）で伴っておらず逆に迷惑をかけてしまっている状況（特に昨年の三重）で強いモチベーションが無いのなら、こういうやり方も意味無いよね。ということになりました。今回の滋賀では、学生別枠の募集は、二重のルールも運営的にはすごく繁雑でマンパワーがないことからやめにして、双方の事情を知る YMOE 社が特別にA決勝進出した学生を表彰するということにしました。今後、また事態が大きく変わらなければ、全日本にくっつくということはありません。インカレはインカレとして、どうやったら本当に世界にキャリアアップしていくことができるインカレスプリントを開催していけるか？　そのあり方を、モチベーションのこと含めて考えていこうよ、こういうことになります。

Q：スプリントオリエンテーリングの特徴というか、まず関心をもってもらうための導入部の種目として説明も一回整理してもらえませんか？
A（山川）：これは JOA の競技委員会の方からいただいた資料をそのまま載せましょう。
（以下 JOA 競技委員）一番のポイントは、オリエンテーリングの基本的な技術要素である
・ルート選択とナビゲーション
を、スプリントでどのように捉えるかになると思います。
スプリントの基準として掲げられている

・コントロールは技術的に容易
・走行は非常に高速で、
・難しいルート選択で、
・高い集中力を要求
を見れば分かるように、ナビゲーションを問うのではなく、ルート選択に伴う判断に重点を置いているのは明らかです。時間があればすべて容易なことでも、高速になるために難しくなり、高い集中力が必要になる、それでもそれを高速でこなすことを求めるというのがベースになります。
　もちろんナビゲーションでも課題がありますが、それは特にトップクラスの人になれば、行けるか行けないかとか、迷わないでというレベルのものではなく、ミクロなルートチョイス（ショートカットや通りやすいところを通るなど）が要素として大きいです。そのために、地図が正確であることが求められます。地図から読み取れない要素で「結果的に」差が付いたというようなことは公平性の観点からも一番排除したことです。
スピードが出せない斜面などのある場所は、スプリントに適さないとまで書かれています。
（以下山川）他の種目についても簡単に要約すると
　ロング　“森の王者”という称号が本場でも与えられる。
　ミドル　ナビゲーションの王者
　ということで、ロングやミドルで芽が出なくてもスプリントで開花する選手もいるだろうね
ということも想定していますね。

Q：で具体的にスプリントの実験大会を開催するにあたって、上記のようなマイナス面をどのように克服しているアイデアなのですか？
A（山川）：それだけでも遠征を強いる、参加費で支弁する大会構成、この 2 つを否定してかかってみたいと思います。その上で、どれくらいモチベーションアップを図れるか、それこそが“実験”になります。まずは今後一番大きな人数が集まるインカレミドル＆リレーの日のモデルイベント＆開会式の日に実験イベントを行う、しかも参加費は徴収しないで、学連（決済組織は幹事会裁量が認められる範囲で）予算で開催する。このことが、先日の総会で決議いただいた部分です。学連全体として、意味あるイベントでなければいけないので、他のことのついでというわけにはいきません。具体的には、モデルイベントの開設時間とか、開会式のリハーサル（特にシード選手紹介イベントの練習）の時間を削って学連全体として取り組む実験イベントということになります。但し、ミドル前日に行うというのが、そもそも強行軍でもありますので、これはあくまでも実験でそのことで学連という組織として今後どう考えるかということを皆で考えるイベントにしたいと緒見ます。なので、選手出場の強要はしませんので、コンディショニングの観点から参加を見送る選手がでてきてもそれは批判されない。但し、ほかの事をするのはダメなので、スプリント実験イベント開催中は、学連のものは、そのことだけに集中する（つまり観戦する）ということになります。また参加費収入に頼って一般参加を認めるということは、ルール遵守も問題にも突き当たるのですが、そのことも議論しだすと長くなるのでここでは、観客もルール遵守の見張人である、そういう発想で大会をやってみたいと思います。

Q：具体的にはどのようなものになりますか？
A（山川）：一時間のスポーツ生中継ショーのイメージです。レースは一本勝負。男子 30 名女子 15 名、スタートは 1 分間隔、ウィニング 12 分、出場者は自己推薦で私を含めた主催者で選抜、基準は、公認・非公認問わず（但し記録が web に公開されていること）、最高クラスで男子上位 1/20、女子上位 1/10 に入っていることを基準により上位と思われるものから選考、同一レベルなら選手を輩出していない大学のものをより採用、微妙な場合はそれに準じる成績も評価、複数の推薦ネタがあるほうがより有利・・・・
こんなことを考えています。ブリテンは 1 月幹事会を経て正式決定して出しますが、出場する意欲のあるものは大体このような基準で考えておいて下さい。

Q：モチベーションという点ではどうですか？
A（山川）：わざわざ遠征、短い距離にこの参加費は高すぎ、その 2 つの障壁は主催者の方で排除しました。あとは、どれだけ皆の代表で、皆か見ている中で、皆が応援している中でどれだけの名誉を感じて走ることができるかということになりますが、それに応じてご褒美も大きなものを用意したいと思います。チャンピオンには、まず手始めに、この考えを主導している YMOE 社・社長もポケットマネーから、紐付き無しで、希望のシューズの購入資金をプレゼントしたいと考えています。（メーカを自由に選べるが、モノで提供するという形）2 位、3 位の人にも、他の大会には無い豪華なオリエンテーリングに関係する用具等のプレゼントをししたいと考えています。加えて、チャンピオンでいる間は、YMOE 社のスプリントイベントはすべて無料招待（他の大会主催者にも同様な措置を呼びかけたい）などを考えています。またインカレスプリントが本稼動した暁には、もっと大きなスポンサーについていただき、もっと大きなご褒美を用意していただく予定です。

Q：実験大会ということですが、次はもう本大会を考えているということですか
A（山川）：はい不作為の責任は大きいと考えていますので、組織としては開催可能、持続可能な範囲で実験結果をみて再考察を加えたあと即本大会（正式なインカレスプリント）の開催を検討したいと考えています。具体的には、ミドル前日に開催するのは無茶承知なので、インカレロング前日がそれに適していると考えています。